

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)

「中国学と現代中国学構築」研究会・「現代中国政治とアジア世界平和構築」研究会(合同公開研究会)

ヨーロッパから見た 対中ODAと日中関係

講師 Reinhard Drifte 氏

愛知大学COE訪問教授・ニューカッスル大学名誉教授・ロンドン大学LSE客員フェロー

概要： 2005年、日本政府は2008年中にODAの円借款を打ち切ることを一方的に決定した。本報告は日本政府がなぜこの一方的な決定を下すことになったのかを問題にする。というのはこの決定は日中関係をいっそう困難にさせるだけでなく、世界銀行が提示してきた経済発展レベルを基準としてのみ借款停止を行うという通例のやり方からも逸脱しているからである。歴史的に見ると、中国は円借款を戦後賠償の一環と位置づけ、日本側としては中国に対して一連の不満（中国の軍事増強、謝意の欠如、そして経済発展など）を募らせてきた。とはいえ、考察力が浅薄であるがゆえに、日中関係の全面的悪化によって円借款が乗っ取られたと結論付けざるをえない。

2006年5月28日(日) 13:00～16:00

愛知大学車道校舎 本館10階K1106教室

* 講演は日本語および中国語でおこないます。 * 申し込み不要

【お問い合わせ先】愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

〒470-0296 愛知県西加茂郡三好町黒笹 370

Tel : 0561-36-5637 (内線 2862) Fax : 0561-36-5422 (内線 2869)

聴講無料